

第6学年 図画工作

第6学年の学習到達目標

- (1) 造形的な能力を働かせるとともに、自らつくりだす喜びを味わい、様々な表し方や見方に触れ、創造的に表現する態度を育てる。
- (2) 材料などの特徴をとらえ、想像力を働かせて主題の表し方を構想するとともに、美しさなどを考え、創造表現の能力、デザインや創造的な工作の能力を高める。
- (3) 作品などを進んで鑑賞し、そのよさや美しさなどを感じ取り、感性を高めるとともに、それらを大切にする。

第6学年の主な学習内容

学期	単元名	学習のねらい	学習内容
I	思いを広げて	●表現は、作者の意図、時代や場所、材料や技法などによって異なってくることを理解する。 ●個々の作品の特色を知り、自分の好きな作品について感想を発表し合う。	○教科書の図版や持参した複製画などを見比べて、共通点や異なる点を話し合う。 ○気にいった作品の、人物の表現方法や表された人物の性格などについて、発表し合う。 ○「ぞうけいずかん」や「いろとようぐのホームページ」などの見方や使い方を知る。
	心に広がる場面	●物語や印象に残ったことから、想像を広げた場면을絵に表す楽しさを味わう。 ●表したい場面がよく伝わるような構図を考える。 ●表したい場面に合う描画材や配色、技法などを工夫する。 ●作品を見せ合い、どんな場面を表したかったのか話し合う。	○物語を聞いて、書きたい場面を決める。 ○表したい内容に合わせて、用紙や材料、技法などを選ぶ。 ○構図や配色、絵の具の使い方を工夫しながら、彩色する。 ○どんな場面を表したかを聞いたり、話したりしながら、作品をお互いに鑑賞し合う。
	くねくねアート	●飾った情景を想像しながら、つくりたい形を構想する。 ●用具を適切に使用して、針金の特性を生かすように工夫する。 ●加工の順番を考え、ペンチなどの用具を安全に使う。	○針金などの材料を切ったり曲げたり、つないだりして楽しく飾れるものを作る。 ○つくる順番や用具の使い方などを工夫して、バランスを確かめながら計画的につくる。 ○道具を安全に使いながら、つくりたい形をつくっていく。
	きょうかしょびじゅつかん	●現代の美術作品について、そのテーマや表し方、材料の扱い方などに親しむ。 ●現代の美術が多様な素材を扱い、表現方法や対象も広がっていることに気づく。	○教科書の作品などを見て、その面白さについて話し合う。 ○表現の動機や作者の意図、代美術と伝統的な美術との違いなど、自分なりの解釈を交えて話し合う。
II	わたしの町	●見慣れた風景から、気にいった場所を絵に表し、地域への愛情をもつ。 ●風景への思いがよく伝わるように、画面構成や色の組み合わせなどを工夫する。	○生活を振り返ってみて、気にいった場所をスケッチしたりして、思いがよく伝わるように画面構成をする。 ○絵の具や筆の使い方、描画材の組み合わせ方など、表現の方法を工夫する。
	ユラユラクルクル	●動く仕組みを理解し、その動きを試しながら、つくりたいものを発想し、スケッチするなどして構想を練る。 ●つくる順番やパーツの接合の方法など確かめながら、計画的につくる。	○動く仕組みを理解し、浮かんだアイデアの中から、仕組みを試しながら、具体化できるものを決める。 ○つくる順番など確認しながら、計画的につくっていく。
	色を選んで	●無彩色に近い色で表す表現活動を楽しむ。 ●同系色の濃淡による違いを、効果的に生かした描画材の使い方や画面構成をする。	○少ない色の表現を知り、少ない色で表してみたいテーマを決めて、描画材を選ぶ。 ○少ない色で明暗や濃淡の効果を生かして、画面を構成する。

	のぼして、まるめて、くっつけて	●粘土を加工する操作から、何かを見立て、見通しをもってつくる。 ●つくりたい形にするために、それに適した用具を使っている。	○粘土を板や筒にして、曲げたり、ねじったり、切り取ったり、組み合わせたりする。 ○できた形や空間からつくるものを思いつき、見通しをもち、道具の使い方や手順を考えて作品をつくる。
III	生まれ変わった板たち	●何に役立つものをつくるか、生活を振り返って、構想を練る。 ●つくるものに合わせて、板材を加工して組み合わせ、用具を使い分けて計画的に製作する。	○役立つものの機能や形を決めるためのアイデアを出す。 ○構想をよく練って、決まった形をスケッチや図に表す。 ○材料の使い方を工夫して、パーツをつくり、着色し、順序よく組み立てていく。
	ワクワクカーニバル	●風景と材料を組み合わせ、風景を変えることを楽しむ。 ●景色をどのように額で切り取ると何がかわるか想像してみる。 ●作ったものと形式との組み合わせを試しながら、デジタルカメラなどで記録をとる。	○身近な風景と材料を組み合わせることを知る。 ○材料を生かして額などを作り、風景と組み合わせながら変化を楽しむ。 ○気に入った組み合わせ方を友達に教えたり、写真を撮って記録したりする。 ○活動を振り返り、新しい表現へとつないでいく。

評価の観点・方法

(1) 評価の観点 それぞれ学習を進める中や学習後に評価します。 【造形への関心・意欲・態度】 自分の思いをもち、造形的な能力を働かせるとともに、自らつくりだすことや美しさなどを感じ取ることなど造形表現活動を積極的に楽しみ、喜びを味わおうとしている。 【発想や構想の能力】 見たことや感じたことなどをもとに想像力を働かせ、主題の表し方など自分らしい表現の構想をしたり、デザインの能力を働かせて、つくりたいものの意図や美しさを考えるなど豊かな表現を構想をしたりする。 【創造的な技能】 表したい意図や周りの様子に関連付けながら、創造的な技能を働かせたり、造形感覚を生かしたりして、表し方を工夫する。 【鑑賞の能力】 造形作品などに親しみ、その美しさなどを感じ取ったり、表し方のよさを感じ取ったり、味わったりする。	(2) 評価の方法 ① 造形活動への関心・意欲・態度の重視 これまでは、教師が教えた技術や内容を、児童がどの程度理解し表現できたかという点を評価していました。しかし、これからは、あらゆる活動場面や過程で、児童一人一人の造形的な思いや意図、また表現における様々な試み等を重視して評価します。特に6年生では、作品をつくっていく過程で自分の作品を見つめ直し、さらに工夫していく姿勢、学習を振り返る態度も大切にしていきます。 ② 作品だけでなく、作品作りにおけるテーマの決定、材料の選択、表現方法、主体的・積極的な表現態度、鑑賞などを多面的に評価します。 ③ 学習の仕方や作品の完成度など、個の内面の変容を把握できるよう児童が自己評価・相互評価したものを参考にします。
--	--

特色ある学習方法

(1) 制作などの実践的・体験的な学習活動の中で、6年生の発達段階に応じた用具・材料の扱い方を身に付けます。 (2) 身近な生活の中の造形活動、表現活動に目を向け、楽しく新たに生活の中に取り入れられる創造活動へとつながっていきます。 (3) 造形活動を「楽しむ」こと。技能を身に付けながら、自分たちの生活に彩りを添える美的感覚を養います。
--

使用教材等

○ 教科書「図画工作 5・6下」(日本文教出版) ○ 材料…アルミ・カラー針金、ダンボール、くぎ、板、ベニヤ板、紙やすりなど ○ 用具…水彩絵の具、ペンチ、ラジオペンチ、カッターナイフ、はけ、ローラー、かなづち、のこぎり、きり、版画用具一式など
--

留意事項

(1) 5年生で「図画工作 5・6上」、6年生で「図画工作 5・6下」の教科書を学習します。 (2) 制作などの実習を効果的に進めるために、学習環境を整えるなど事故の防止に十分留意しています。 (3) 6年生の発達段階に必要な用具、材料を網羅するよう、段階的に年間カリキュラムを考え、必要に応じて、教材セットを使用し、学習に役立てています。 (4) これからの生活に生かしていくことができるような「楽しむ」造形活動を多く取り入れていきます。
--

